

photopos 39

2017.4.14～2017.5.8

【神秘学ポエジー～風遊戯 第78集】

photo ヴァージョン

photopos951-975

神秘学遊戯団

2017.4.14



石畳を歩けば
木漏れ日は
ゆれる光の花

思い出を歩けば
時のかけらは
ゆれる心の花

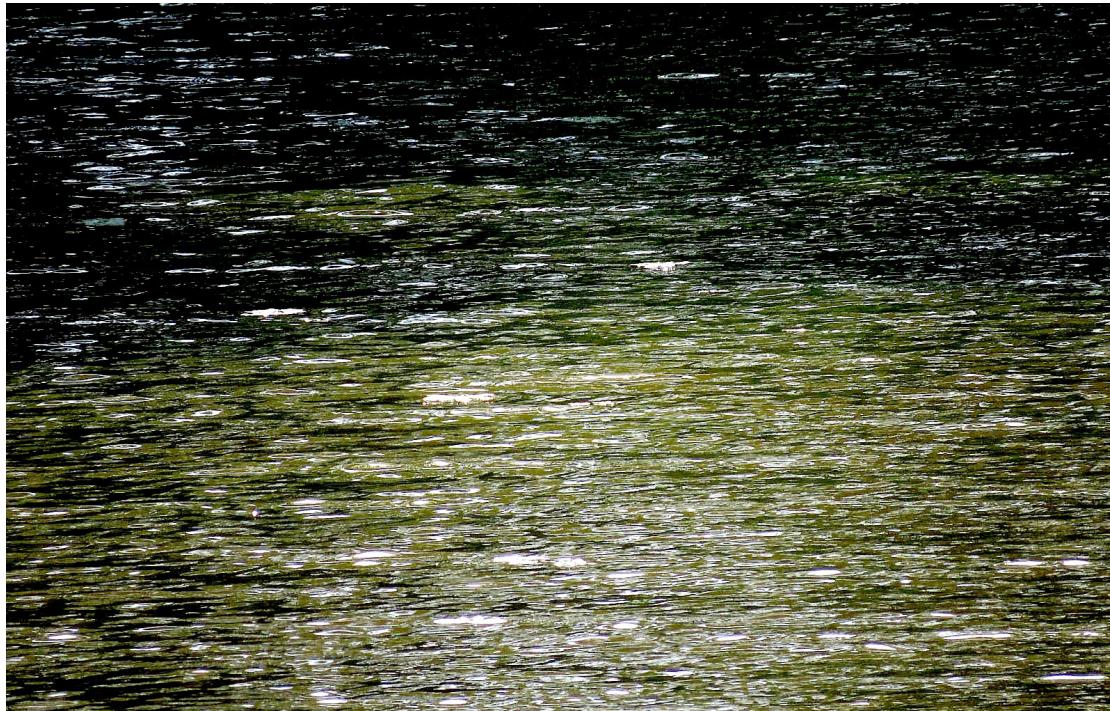
言の葉を歩けば
物たちは語り
ゆれる詠の花



*高知市・牧野植物園にて

photopos-952

2017.4.15



はて
どこへ

さて
なにを

まどいのときは
まどいのままに

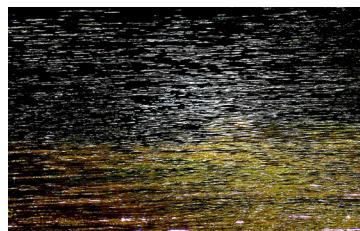
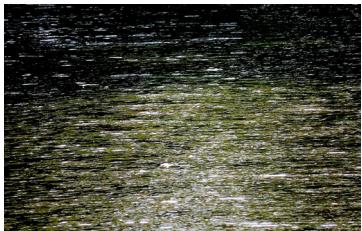
おろかなときは
おろかなままに

ほら
あちら

あら
こちら

さいはてなどと
うそぶくまえに

ゆくえさだめぬ
こころのままに



*高知県日高村・めだか池にて

2017.4.16



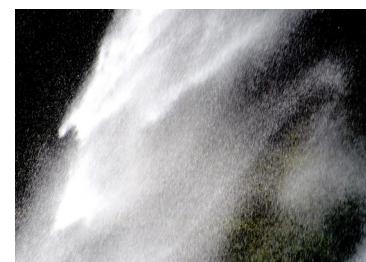
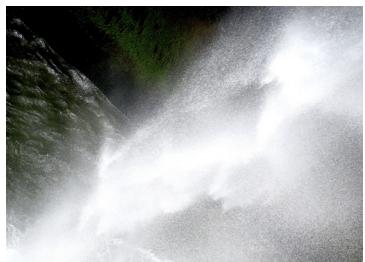
春の水
滔滔

春の風
飄飄

春の花
散散

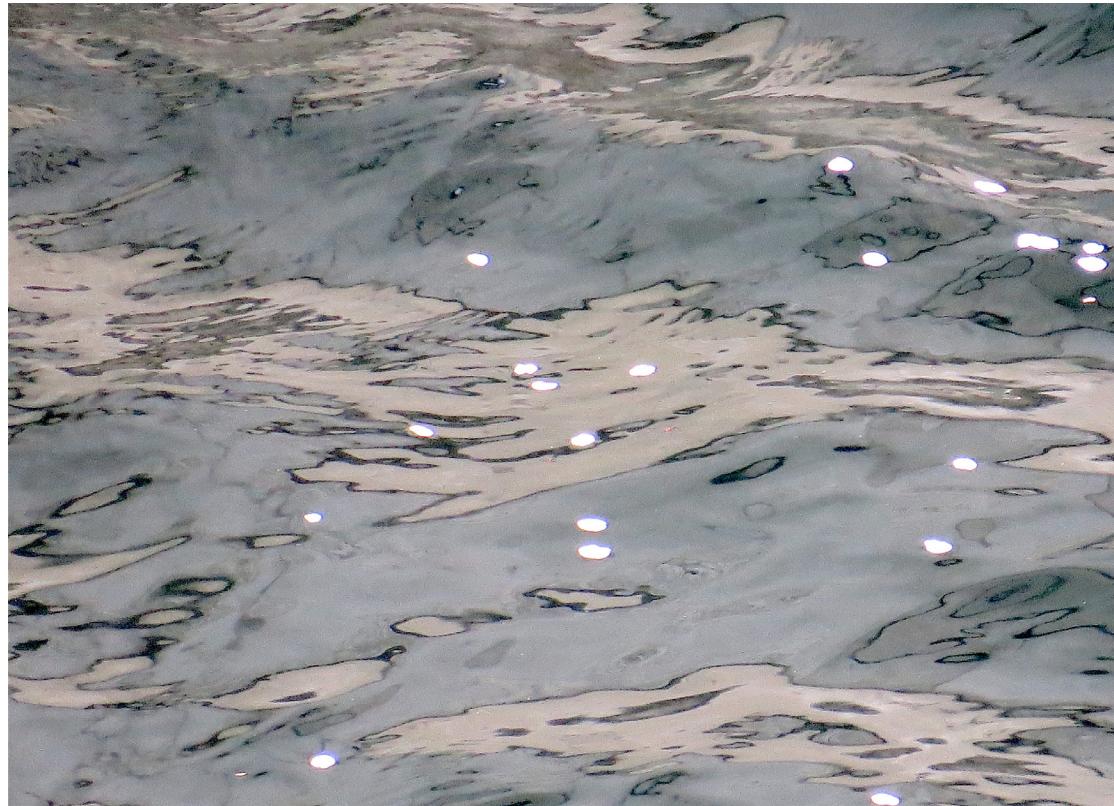
春の天
変変

春の我
朴朴



* 愛媛県松山市・石手川ダムにて

2017.4.17



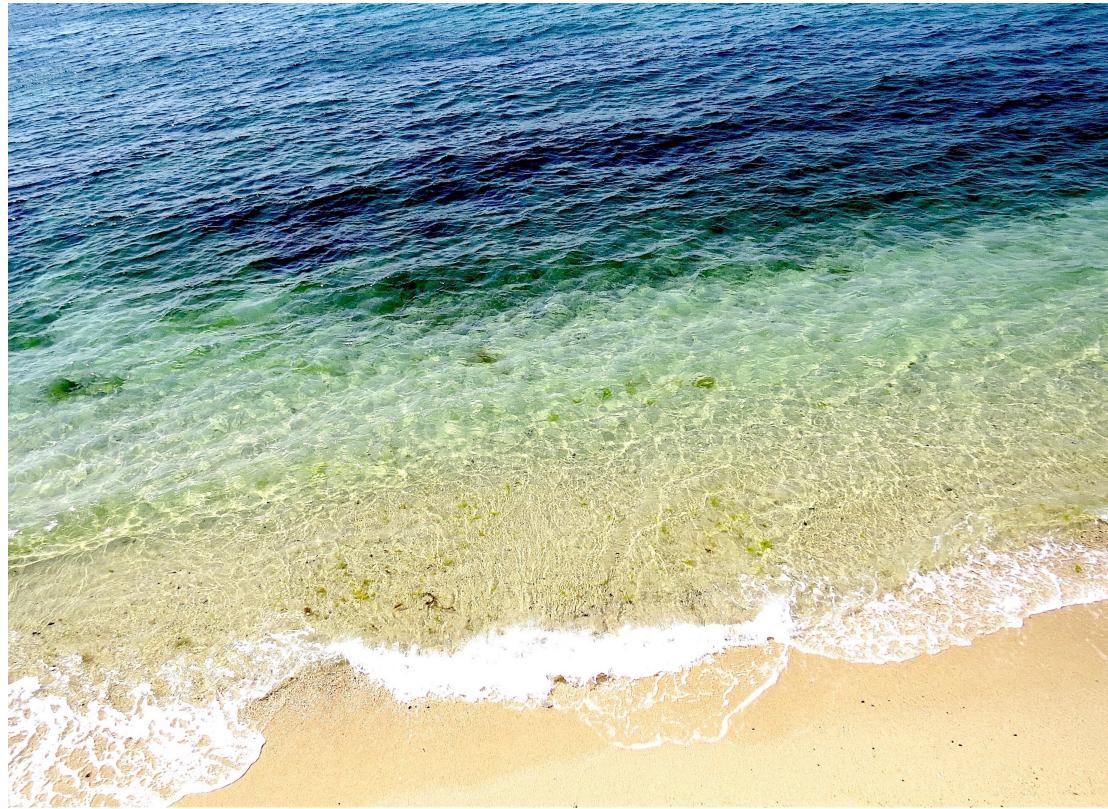
*愛媛県松山市・石手川ダムにて

花の姿を
とどめんとて
甲斐なき技よ

花は花
されど
花は幻
されど
花は花

人の姿を
とどめんとて
甲斐なき技よ

人は人
されど
人は幻
されど
人は人



寄せて返すは
折節のけしき

季節の騒ぎの
あはれなりや

心驚かせては
過ぎゆくこと

ときめいては
去りゆくこと

徒に色めきつ
儂げに消えつ

寄せては返す
夢のまた夢よ



*愛媛県今治市菊間町にて



つかのま
その影
その形

されども
わが影
わが形

光ありて
影深く

風ありて
揺れ惑う

声なき声に
驚きて

故なき道を
踏み迷う

つかのま
わが影
わが形

されども
心よ
わが心

*愛媛県伊予市・大谷池にて



*愛媛県松山市・重信川河口にて

泥にはいのちが埋まっている
鳥たちは河口に集まり
じぶんたちのいのちを満たそうとする

闇には光が埋まっている
人は心の闇を歩きながら
深く眠ったままの光を探し求めている

今には永遠が埋まっている
時は水平にさまよいながら
深みに広がる永遠が見出されるのを待っている



いまここにあるもの
かつてここにあったもの
やがてここにあるもの
すべてがいまの深みで交わるとき

地は静かに積り
水は静かに留まり
風は静かに流れ
光は静かに交わり

いまわたしであるもの
かつてわたしであったもの
やがてわたしであるもの
すべてがいまの深みで交わるとき

体は秘かに地をむすび
血は秘かに水をむすび
息は秘かに風をむすび
心は秘かに光をむすび



* 愛媛県松山市・重信川河口にて



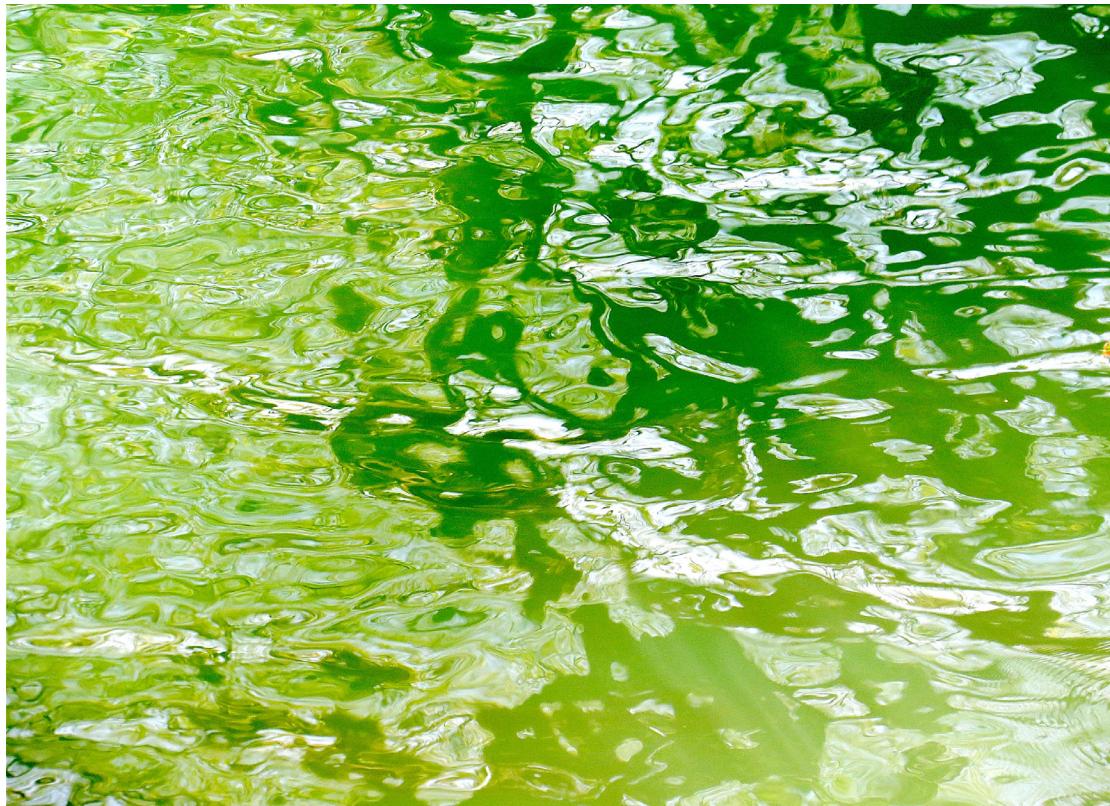
*愛媛県今治市菊間町にて

海がぼくに話しかけているから
その言葉がわかるように
ぼくは風になって駆けてみる

海の色は光のダンスだから
いっしょに踊れるように
目をくるくると遊ばせてみる

波の音は海の音楽だから
いっしょに歌えるように
耳を空にまで開いてみる

海の向こうにはなにがあるんだろう
地平線の彼方じゃなく
海という永遠の向こうに



ぼくのなかの記憶が
季節のなかでゆらゆら

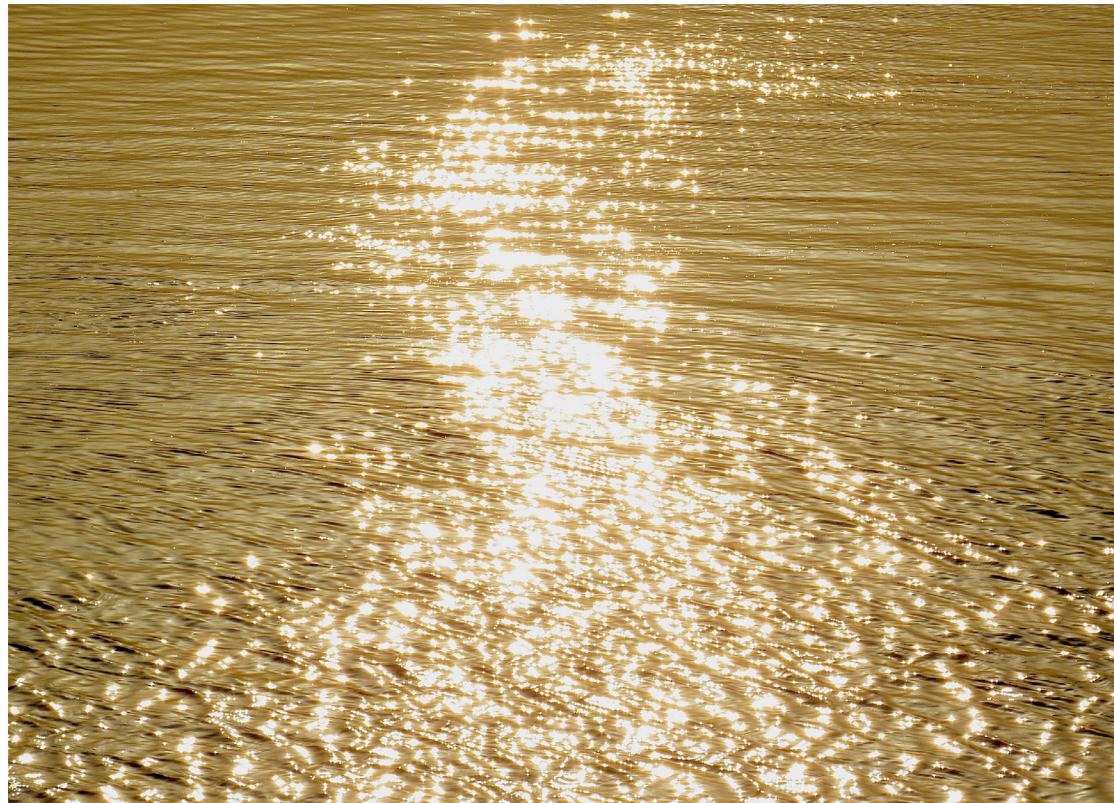
ぼくは変わってゆく
でもそれもまたぼくだ

ぼくはぼくだけれど
ぼくはぼくを変えてゆくのだ

ぼくはどこへ行こうとしているのだろう
変わりつづけるぼくとともに

知らないぼくといっしょに
季節のなかでゆらゆら

*愛媛県伊予市・大谷池にて



* 愛媛県松山市・重信川河口にて

光の人よ
汝の内なる
光の人よ

祝祭の時は
近づけり

闇の人よ
汝を被う
闇の人よ

変容の時は
近づけり

星の人よ
汝の出でし
星の人よ

帰還の時は
近づけり

永遠の人よ
汝の内なる
永遠の人よ

人を超える時は
近づけり



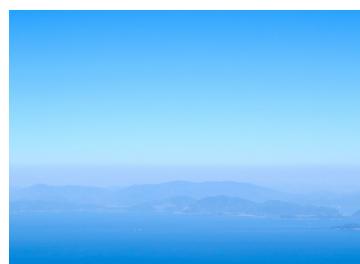
時は春
春の山

空となり
蒼に広がり

海となり
蒼に溶けて

島となり
蒼に浮かび

心は彼方
夢はるか



* 愛媛県松山市・高縄山頂から瀬戸内海を臨む



* 愛媛県松山市・重信川河口にて

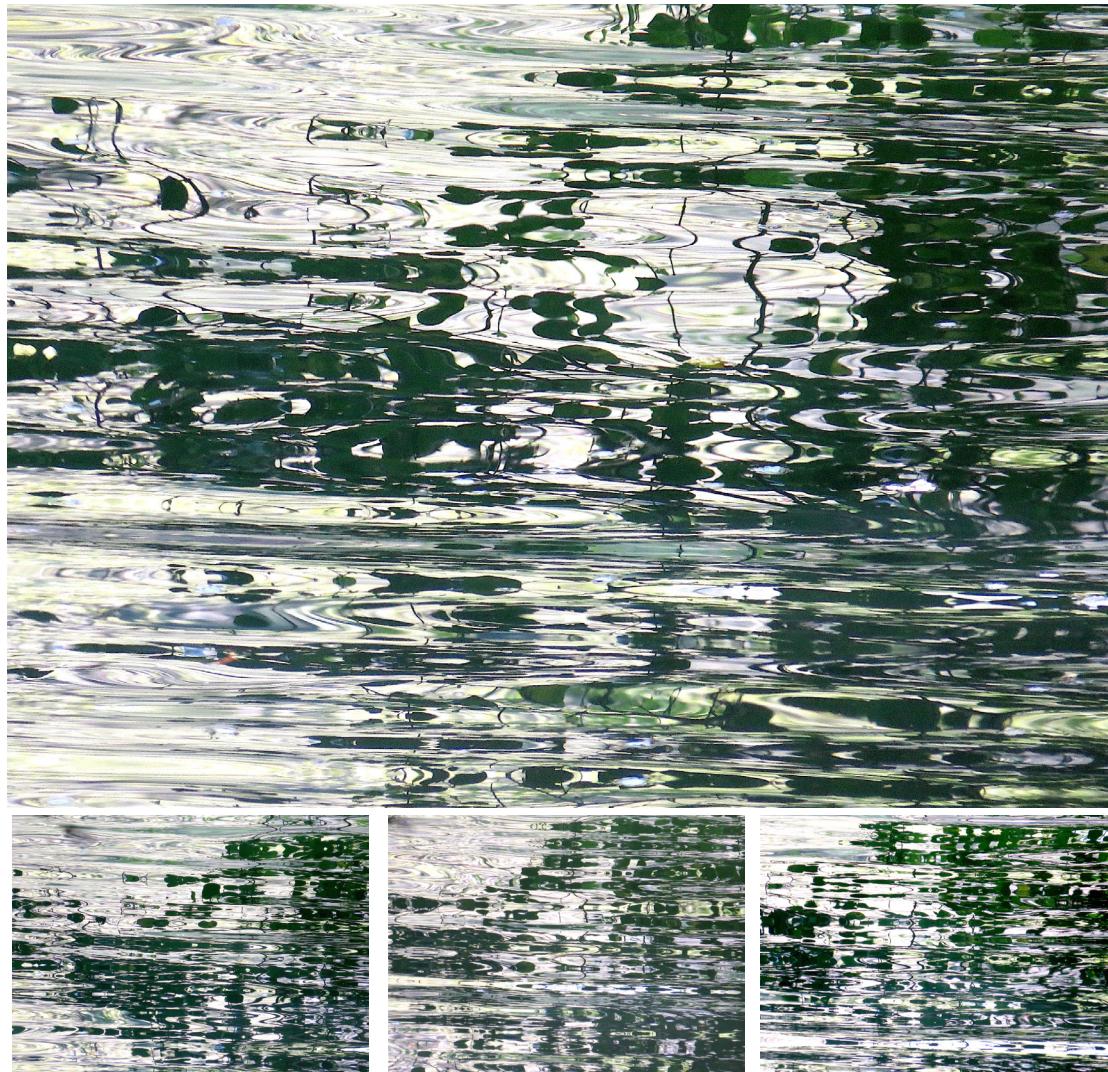
くりかえし
くりかえし
飽かずお話を求める
幼子にも似て

それが
くりかえし
くりかえし
映し出される
黄昏の光景だったとしても

くりかえされる度ごとに
深まりつづける
新しい光の風景であることを
私は求めているのだ

私という旅人は
彼方へ往けば往くほどに
今ここに還ってくるのだから

私というもうひとりの私は
知らない私となって
今ここに還ってくるのだから



* 愛媛県伊予市・大谷池にて

芽吹くものよ
うつろうものよ

季節は人をめぐり
人は季節をめぐり年を重ね

人は往くのか還るのか
季節は往くのか還るのか

変わるために時はあり
変わらぬために永遠はあるのか

時は永遠から生まれ
永遠へと帰還することで
深められてゆくのだろう

小さきものへの無限と
大きなものへの無限とが
永遠のなかで交わっているように



波のことばを
聞きたいならば
風と話すことだ
月の秘密を教わることだ

寄せては引いて
引いては寄せて
くりかえされるなぞなぞが
波のことばで語られる

星のことばを
聞きたいならば
数と話すことだ
物の秘密を教わることだ

天にひろがる
はるかなカタチ
ぐるぐるめぐる幾何学が
数の言葉で語られる

* 愛媛県今治市菊間町にて



* 愛媛県今治市菊間町にて

形のなかには
時間が織り込まれている
時間のない形は
あるのだろうか

刹那のなかには
動きはあるのだろうか
動きのない刹那は
あるのだろうか

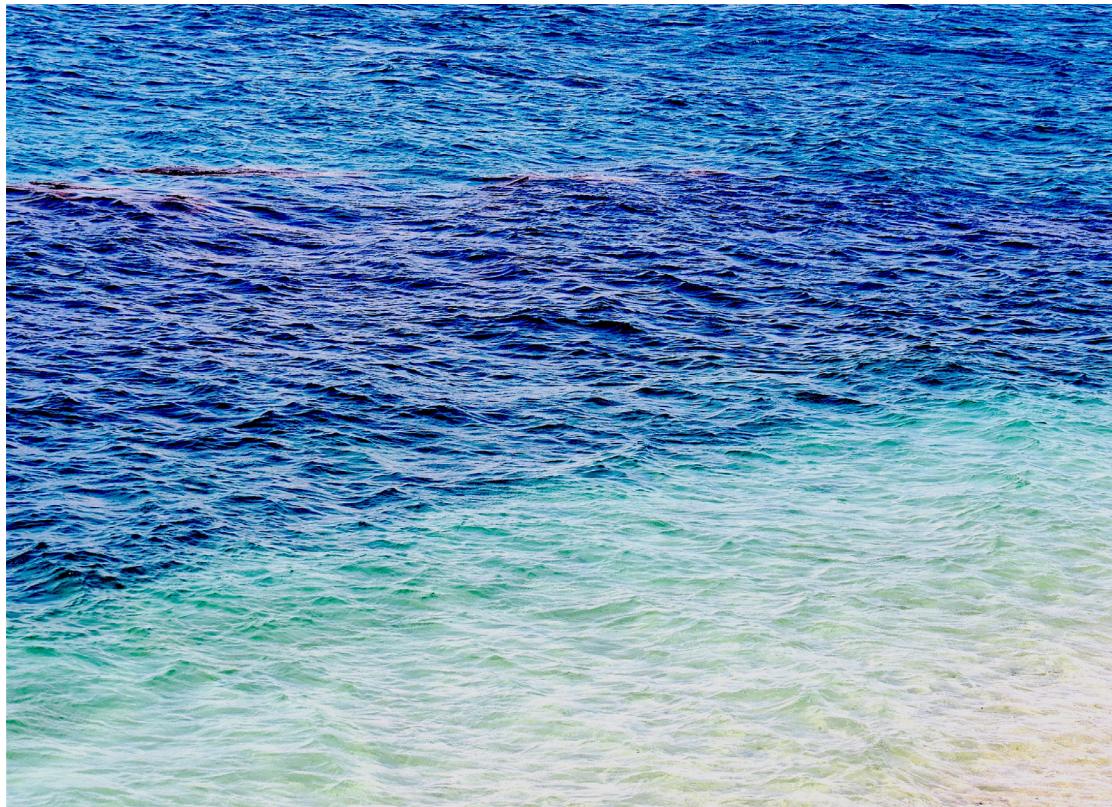
永遠には
動きはあるのだろうか
動きのない永遠は
どんな永遠なのだろうか

光のなかには
闇はあるのだろうか
闇のない光は
見ることができるのだろうか

無限に大きいものは
その無限に大きいものより
もっと大きいものに
どのようにして包まれているのだろうか

無限に小さいものは
その無限に小さいものより
もっと小さいものを
どのようにして包んでいるのだろうか

私のなかには
汝が織り込まれている
汝のいない私は
存在しているのだろうか



青と白

空と風

分かちきれない

そのあわいに漂う

イエスとノー

その境目に開いてしまった

傷の深みの切なさを

静かに包むように

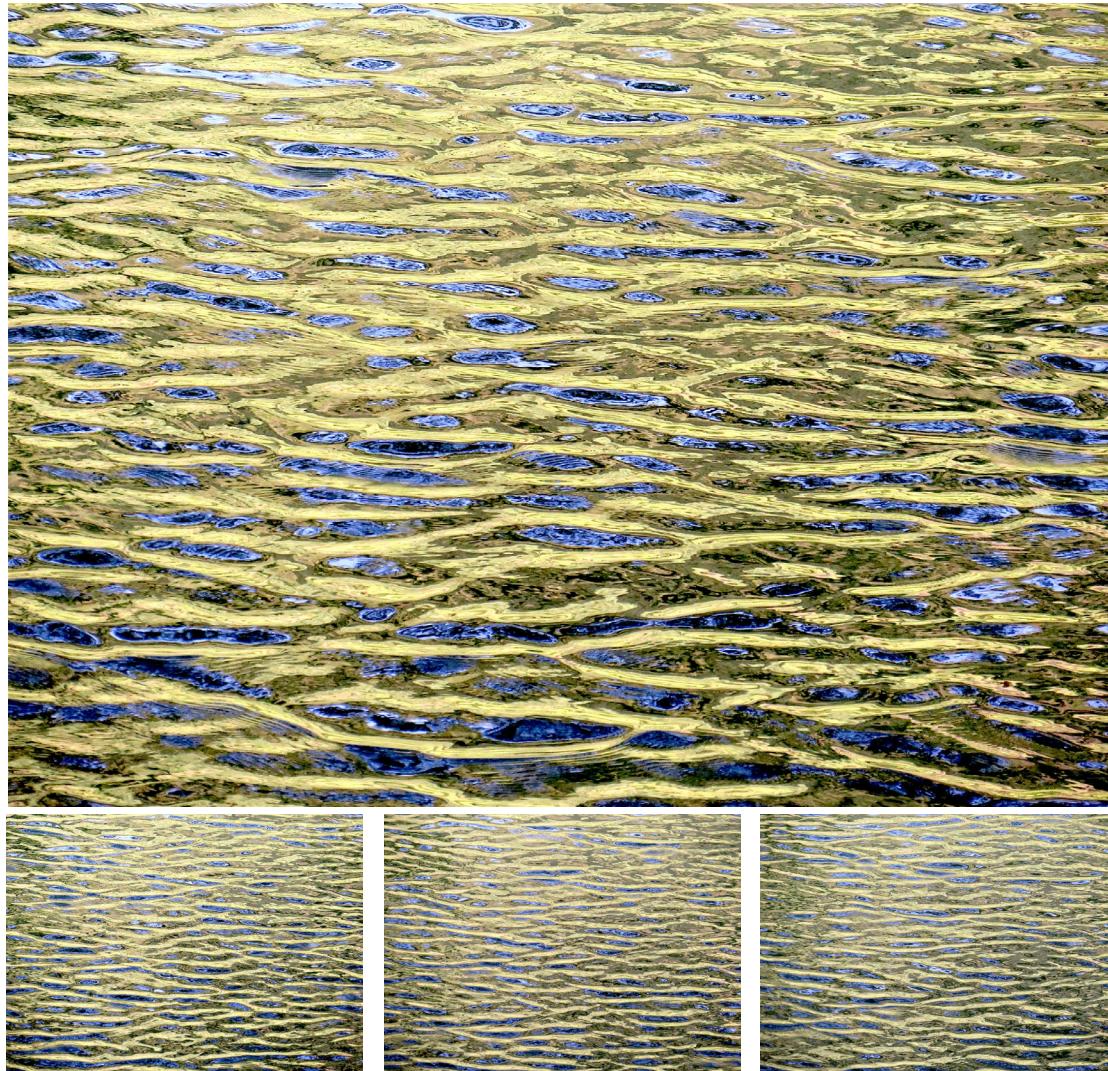
私とあなた

その間に開いてしまった

距離の遠さの悲しさを

やさしく癒やすように

* 愛媛県今治市菊間町にて



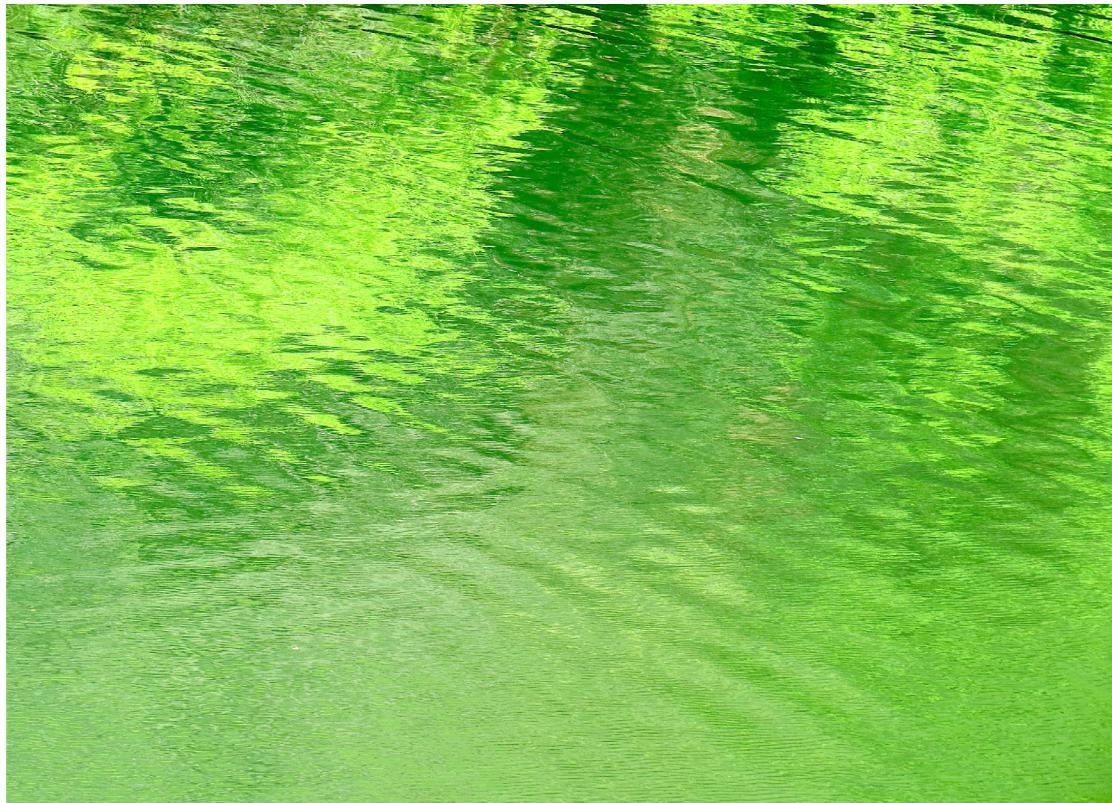
*愛媛県伊予市・大谷池にて

そこに
音色を聴くか
色彩を見るかなど
さして問題ではない

そのなかに
じぶんがいるかどうか
そのことこそが
問われねばならない

ましていまが
いつであるか
ここが
どこであるかなど
問題にはならないのだ

じぶんが
いまにいるかどうか
ここにいるかどうか
そのことこそを
問い合わせてみることだ

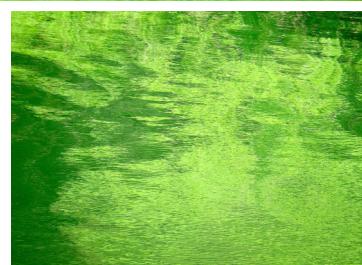


森を歩いて
森のことばを教わる

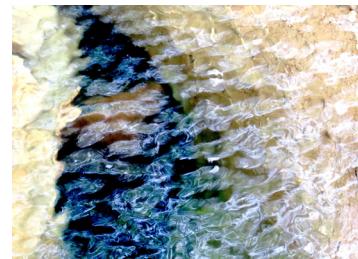
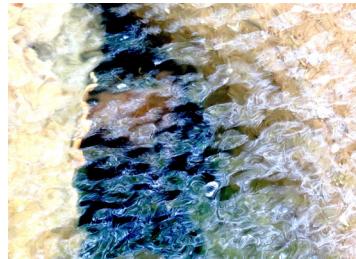
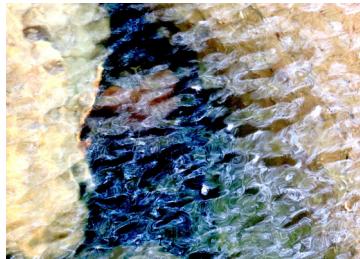
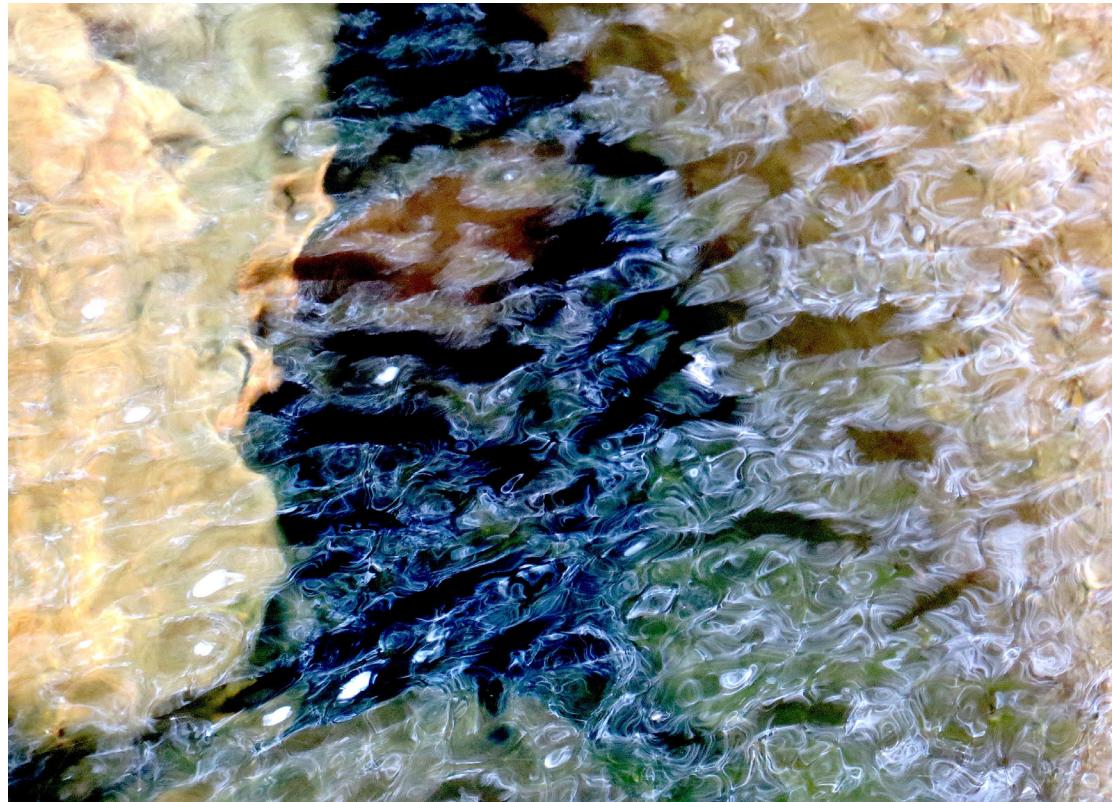
光の音楽を聴くには
樹の通奏低音の流れるなか
風や鳥に耳を澄ませる

夢を歩いて
影のことばを教わる

星の音楽を聴くには
夜の通奏低音の流れるなか
天と地の合わせ鏡に張られた弦を爪弾く



*愛媛県伊予市・大谷池にて

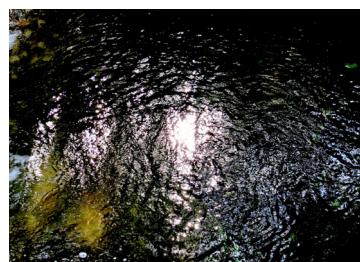
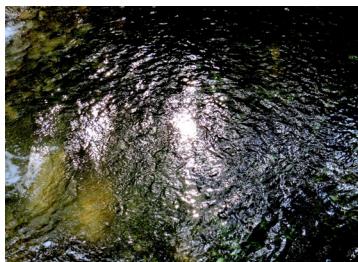
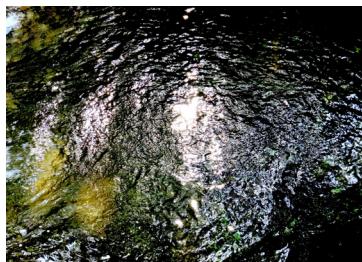
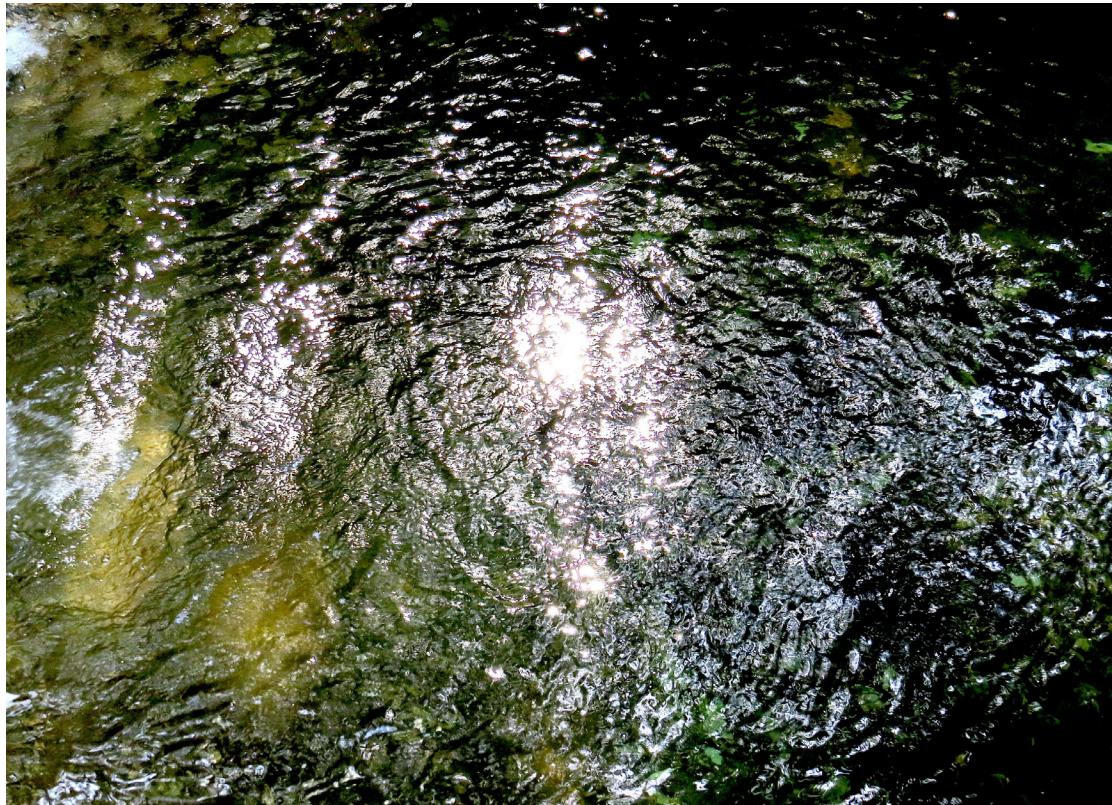


ボレロのように
踊れるかい
同じリズムで
光と闇のメロディーを繰り返しながら

軽やかに
飛ぶように
ステップを踏むんだ
天と地を行き来しながら

ボレロのように
話せるかい
同じリズムで
真実と虚構を繰り返しながら

軽やかに
笑うように
現実を超えるんだ
夢と現を行き来しながら



あなたの秘密を教えてください
そこにはあなたの光の種が
隠されているはずだから

あなたの誰にもいえない嘘を教えてください
そこにこそあなたのほんとうが
隠されているはずだから

あなたの深い悲しみを教えてください
そこにはあなたの生の理由が
隠されているはずだから

あなたの忘れた歌を思い出してください
そこにはあなたの旋律が
隠されているはずだから

あなたのほんとうの名前を思い出してください
そこにはあなたの真実が
隠されているはずだから

あなたがあなたである祝祭を思い出してください
そこにこそあなたの源が
隠されているはずだから

* 愛媛県東温市・滑川渓谷にて



* 愛媛県東温市・滑川渓谷にて

わたしのなかの水よ

変わらず
流れ続けることで
変わり続けながら
生まれてゆく形のように
わたしの今があるならば

流れとともに
わたしはあるのだ

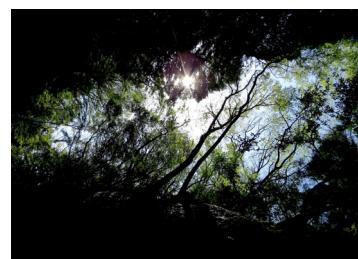
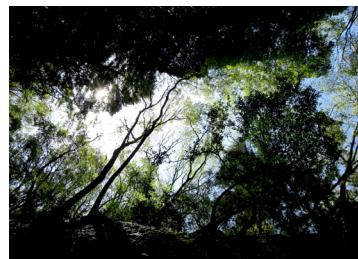
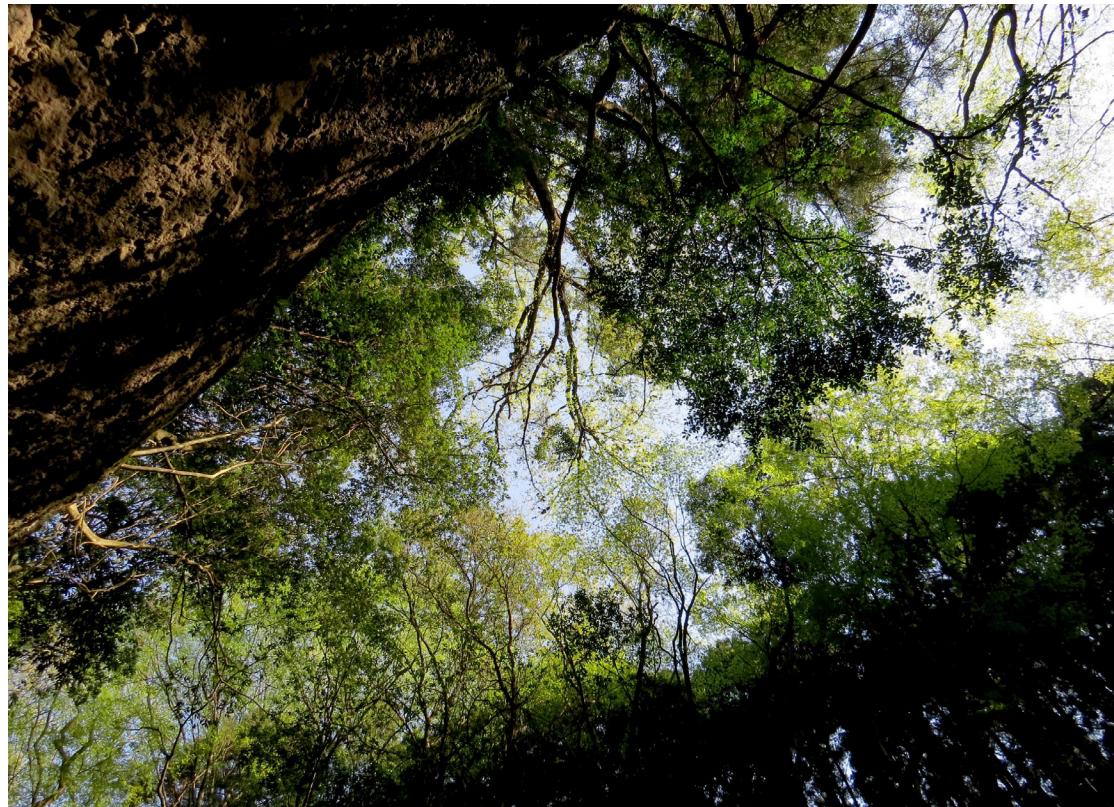
たとえその水が
ときに涙となって
流れたとしても

わたしのなかの風よ

変わらず
吹き続けることで
変わり続けながら
姿をとどめないままに
わたしの今があるならば

風の行方とともに
わたしはあるのだ

たとえその風が
ときに嵐となって
吹き荒れたとしても



* 愛媛県東温市・滑川渓谷にて

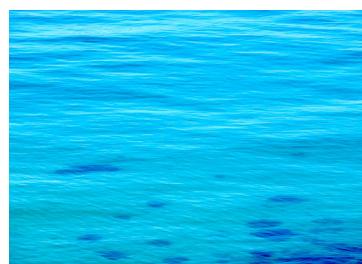
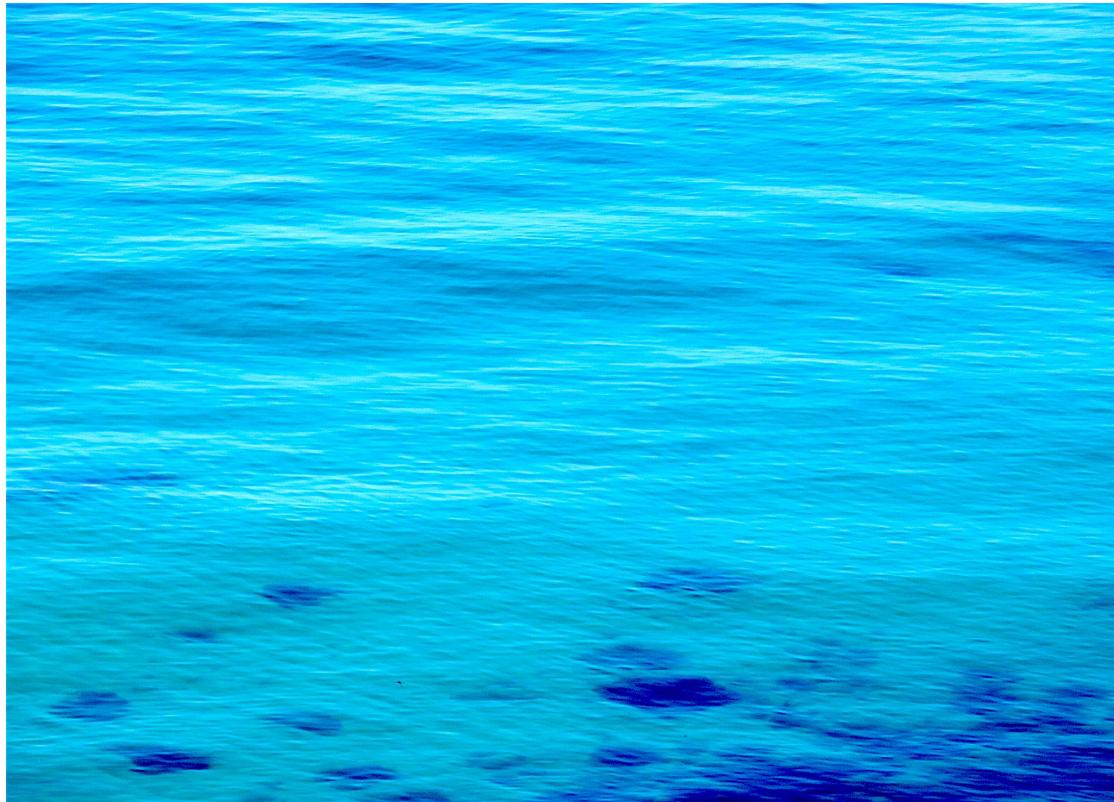
忘却の森を歩けば
置き去りにされた
言葉や約束が
光と闇の模様を作る

私は何を
忘れようとしたのか
何を恐れていたのか
忘れたことさえ
闇のなかに置き去りにして

言いそびれた言葉
罪のない嘘
たわいのない約束
不用意なしぐさ
そんなくさぐさの戯れを
私は森に残してきたのだ

忘却の森を
忘却の私とともに
知らない私が歩いている

静かな風が渡り
穏やかな光が注ぎ
やがて二人が一人になり
一人がまた無数の私になる



* 愛媛県松山市浅海原にて

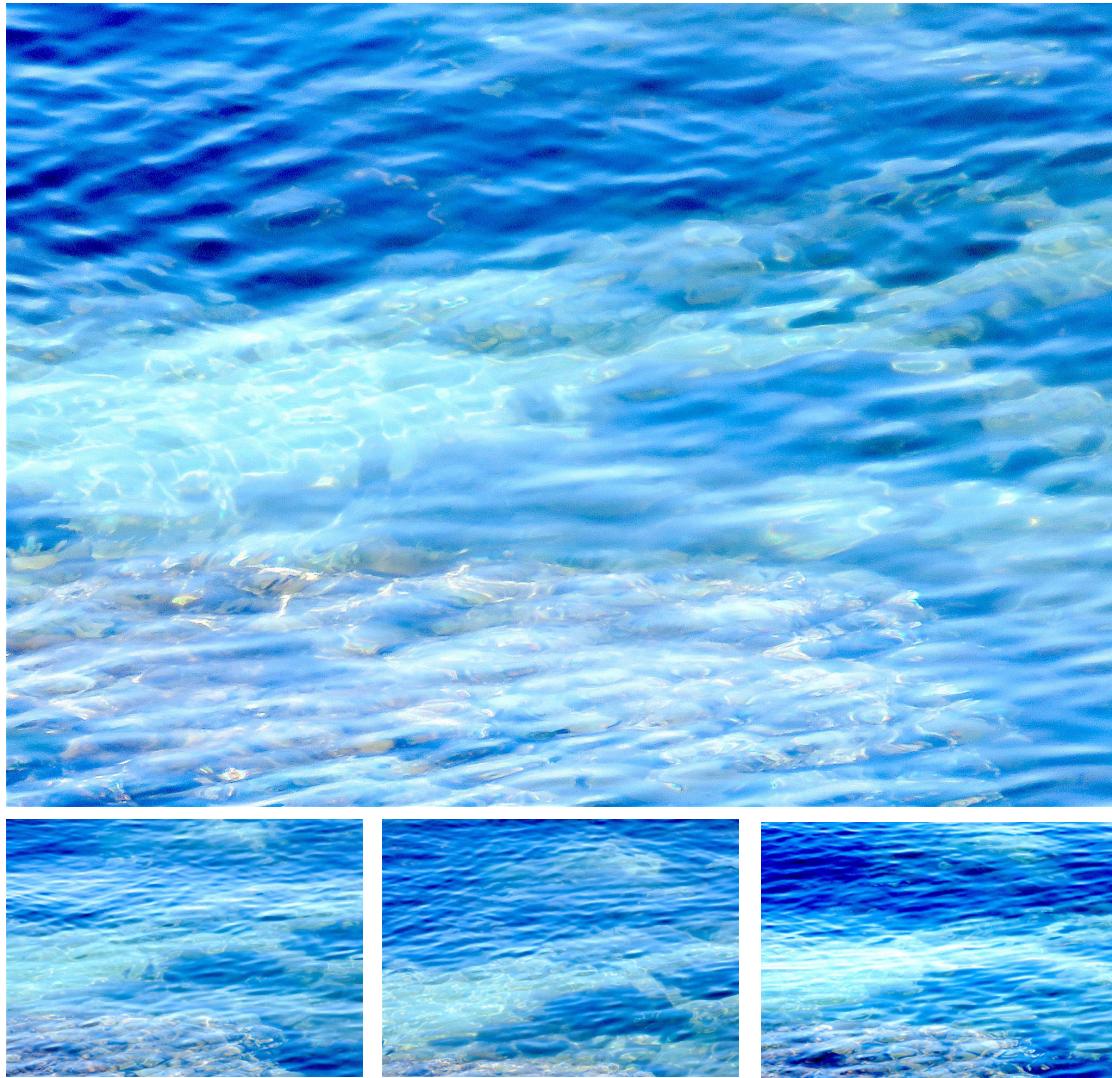
わが海は
悲しみの衣
時のなかをゆれつつ
碧い糸を紡ぐ

わが空は
儂さの詩
時のなかを流れつつ
碧い言の葉を浮かべる

わが土は
頑なな器
時のなかに埋もれつつ
碧い祈りを求める

されど

わが手は
わが足は
未知の作り手
時のなかを遊びつつ
碧い無限を夢見る



* 愛媛県松山市浅海原にて

光の花を見たかい
夢と現のあいだを流れる
川のほとりに咲く花さ

花の青を見たかい
天と地のあいだを翔ぶ
鳥たちの歌う花さ

青の言葉を聞いたかい
生と死のあいだで交わされる
沈黙の祈りだという

言葉の秘密を聞いたかい
神と人のあいだをつなぐ
初めにあった命の光だという